

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892900028		
法人名	社会福祉法人河内厚生会		
事業所名	グループホームみつば		
所在地	茨城県稲敷市光葉11-22		
自己評価作成日	平成25年12月2日	評価結果市町村受理日	平成26年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0892900028-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成26年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設3年目を迎え、より地域に届け込み必要とされる施設を目指し、足湯の開放や地域の行事への参加等を通じて、近隣住民の方との交流を積極的に行っています。入居者様には広い施設内で自由に散歩して頂き、併設の小規模型ホームの利用者様とも交流をしながら生活して頂いています。入居者様の声を尊重し、馴染みの関係の継続、家族・職員・入居者様同士のつながりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員の日々の努力が実を結んできた事業所である。地域交流も自治会長・民生委員の協力の下、活発に行われ、事業所や認知症への理解を得ることが出来た。地域住民にはシルバー体操の後に敷地内の足湯を、防災訓練時に職員駐車場を解放している。事業所からは利用者と一緒に喫茶みつばに出かけ、地域住民と友好的関係を築いている。夏祭り・納涼祭を併設の小規模多機能型施設と合同で開催し、地域住民の参加も増えてきた。利用者個人個人の人格を尊重し、日々の利用者の想いに添ったケアの提供に努め、職員・利用者との関係も良好である。広い敷地内でのんびりとした生活を楽しんでいる。(ウッドデッキで日光浴やお茶を楽しんだり、趣味に没頭したり、畑の野菜の収穫をやりがいとして楽しんでいる利用者の姿があるという。)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に「心に寄り添い、笑顔あふれる家であり続けます。」という理念を這って毎日のケアに取り組んでいる。	法人の基本理念以外にユニット毎にホーム独自の理念を掲示し職員の意識確認を行っている。日々のケアの提供にあたり、管理者・職員からは申し送り時や会議等で更に確認し、理念に添った支援を実践につなげているとの話しが聞かれた。職員聞きとり時には利用者の活気のある生活を心がけた支援の提供に努めていると話があり、利用者との関わりの中でその意識を確認出来た。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃には利用者と一緒に参加し、また施設設備の開放をするなど地域に根ざした施設になるよう努めている。	地域のイベントに職員・利用者で参加し(清掃活動・草取り・街路樹・花壇整備等)地域の一員とした活動に取り組んでいる。事業所主催の夏祭りには地域にも参加を呼びかけている。介護相談を受け、アドバイスや関係機関につなげている。ボランティア(シルバー体操・読み聞かせ・踊り・カラオケ)の訪問があり、利用者は楽しみにしている。カラオケはマイク片手に利用者も一緒に歌っている。地域の防災訓練は駐車場を開放し職員と一緒に放水訓練を実施した。先日の大雪は地域の方々が雪かきを行ってくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して理解を広めたり、近隣住民の方からの介護相談を受けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、民生委員、自治会長、市役所職員、社会福祉協議会等の参加者からの意見を参考にし、サービスに活かしている。	2ヶ月毎に民生委員・自治会長・老人会会長・家族・行政・社協・事業所関係者の構成メンバーで小規模多機能と合同で開催し、事業所の取り組みやサービス内容・外部評価結果・改善策等を伝え、意見をサービス向上に活かしている。議事録を家族に郵送し運営推進委員会の意義・目的等の意識付けを行っている。職員には会議等で報告し共有している。災害時の電源バックアップにつき質問があり、カセットコンロで動かす発電機は整備していると報告したが、本部でも法人として車を利用した発電を検討中。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加や、市役所への訪問を通して、情報提供や相談を行っている。	運営推進会議への参加の他、関係担当課との連絡を密に行い、情報提供・交換・相談をしている。地域包括支援センター主催の研修会に出席し情報交換を行っている。小学校からお米の提供があり、これを機会に交流を図れたらと考慮中。また中学生の体験学習についても考えていきたいとの事。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を守り、家族へのリスクの説明をするとともに、拘束委員会を中心として職員間の拘束に対する意識の確認をしている。	拘束防止委員会が主となり研修を開催し、拘束となる行為・弊害を理解し、利用者の安全を配慮したケアの提供に取り組んでいる。スピーチロックは職員間でなかなか注意できていないので、その場で確認しあう体制をとりたいとの事。車椅子は随時点検実施し安全に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に事例をもとに検討している。各ユニット会議においても虐待防止について意識の確認・統一をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学んだり、市役所の方と話し合ったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、直接契約書をもとに説明を行い、同意をいただくとともに意見や要望などを伺うことで、共通理解を深めるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に於いて家族からの意見・要望を聞く時間を設けている。また家族へ連絡を取りたい利用者に対しては随時対応している。	運営推進会議・面会時に家族からの意見・要望等を聞いている。利用者からは日々の会話の中から吸い上げている。意見の言い出しにくい利用者・家族に対し意見箱の設置・第3者機関名・電話番号を明示している。職員の対応についてクレームがあり、認知症介護として何が一番大切かを職員会議で取り上げ、指導を行い改善に向ける事を家族に報告した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや職員会議等で意見を、管理者が本部での会議で報告している。	日々の気づき・申し送り時・会議等で出た意見や提案は検討を重ね、議事録に記入して全職員で共有している(人事異動・入浴介助支援・エアマット・クッション等)。管理者から本部に報告し、意見や提案を反映させている。研修受講後は報告書・会議等で伝達している。職場環境の整備・充実に努め、管理者・職員との関係は良好であると、職員から話があった。今後は職員の意見を聞き研修内容の充実に図る予定との事。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部や管理者会議に於いての意見を活かし、職場環境の充実・整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には新人研修を設け、職員として必要な知識・意識の教育をしている。また法人外の研修にも積極的に参加している(認知症実践者研修等)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修に於いては、多種多様な施設の職員と共に学ぶとともに、意見の交換などを行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望を十分に組み入れた介護計画を作成している。現入居者との円滑な関係作りが出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに連絡を取り、これまでの自宅での生活状況を聞く。介護への共通理解を図り、家族の不安を聞き出せるような関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅からの継続を主に、本人の負担にならないようなニーズへの対応、歯科受診や主治医の決定支援、福祉用具の導入や環境整備に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いによく話をし、利用者本人の決定を尊重しながら、役割を持って生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活用品等は可能な限り持参していただき、できるだけ面会の機会を設けている。家族参加のイベントを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族親戚はもちろん、ご近所に住んでいた方にも面会に来ていただいている。	友人・知人・家族の面会が多いが、遠方の親戚や友人には利用者の希望により電話・郵便・年賀状で連絡を取り合い、馴染みの人との関係継続に努めている。馴染みの場所の美容院・お墓参り・外食・外泊は家族の協力を得ながら行っている。その時期に合った食べ物(果物等)を食べたいという利用者があるので、買ってきて提供している。受診後に寿司を食べたいという利用者の希望を聞き昼食を食べている。家庭からの継続で新聞を購読している利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	併設施設利用者とも交流しながら、時には職員が間に入り、利用者同士が良好な関係を築けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても家族からの相談に対応している。関係の継続に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中でコミュニケーションをとり、一人ひとりの立場や関係性、役割を職員全員で把握し、本人の思いを引き出し表情や心が豊かになるよう努めている。	小さな事でも質問し、希望を聞き、利用者の意にそったケアの提供に努めている。生活暦・職歴からやりがいや趣味、楽しみを把握し支援することで利用者が明るい表情になっている。困難な場合は家族にも聞き、職員間で話し合い、利用者本位に検討している。食欲が無い利用者から外食をしたいという要望があり、家族に伝えて外食に出かけたら元気に帰宅してきた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に生活習慣や生活歴、入浴方法や食事の好み等を聞き、ケアプランに記入し職員全員で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りでケア内容を話し合い、日々の変化を追いながら心身のケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやケア記録を通して情報を共有し、関わりを探っている。毎月ケアカンファを行い、本人や家族に報告・相談して介護計画を作成している。	ケース記録や申し送り等で情報を共有し、モニタリングを行い、計画を立案。カンファレンスで話し合い、利用者・家族の意見や要望を取り入れたケアプランを作成している。作成後は家族に説明し了承を得ている。状況変化時には現況に即した介護計画を作成している。	プランとケース記録が連動する記録方法への改善に努めたが、内容が介護日報誌となっており、サービス計画・達成表が活かされていないので、今後は短期目標に向けた支援内容を記録として取り入れることが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、業務日誌、申し送りノート等を通じ情報交換を行っている。利用者の小さな変化や気づいたことを話し合い、アイデアを出し合って柔軟に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	掛かり付けの病院受診、訪問散髪、訪問歯科等のサービス提供。その他状況に合わせて、本人・家族の希望を取り入れたサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに積極的に参加している。また近隣からのボランティアを受け入れ、利用者が外部の人間と係ることが出来る機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診付き添い時には、利用者の主治医と普段の様子を相談しながら、情報交換に努めている。家族に対して、受診付き添い記録を送付している。	2ヶ月毎の往診と週1回の訪看があり、利用者の健康管理に努めている。突発受診は家族に連絡の上、受診している。受診結果は家族に電話連絡し、受診付き添い記録に記載の上、領収書と記録をコピーして家族に郵送し共有している。職員にはユニット毎にコピーを配布している。専門医の受診対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護による健康状態管理時に、日々の状態を相談するとともに、受診について相談し意見を交換している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに介護サマリーを提出している。入院中も面会や電話連絡を通じて、主治医・病棟看護師と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについての説明をし、同意書への同意の有無の確認をしている。家族にとって看取りについて考えていただく機会としている。	契約時に看取りに関し説明を行っているが、同意書はその状態になった時点で取り交わすこととなっている。現時点では職員の意識が統一されていないので、体制が万全ではない。	ホームで看取り支援を行う方針であるなら、職員と話し合い、全職員の意識を統一し、それに向けた体制作り(不安解消・看護師を交えた勉強会・マニュアル作成等)が、望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練の実施。職員には心肺蘇生の研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>緊急連絡網を設け、全職員が把握。消防署の指導を受けている。</p>	<p>年2回の訓練を実施し(緊急連絡システム・連絡網・避難経路確認・消火器使用方法・利用者行動把握・夜間想定等)利用者が安全に避難できる方法を職員は習得している。緊急通報システムと同時に職員にメールが届くシステムを考慮中。コンセントのほごりは点検。地域の協力依頼内容を構築し3月の合同訓練を実施予定。備蓄品は整備している。今後緊急持ち出し用品を整備する。地域と事業所の一時避難場所として駐車場を提供。広域避難場所は家族・職員とも周知している。通電火災の注意は職員に伝達する予定。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの歴史・構成を尊重し、それぞれに合った対応をしている。</p>	<p>人生の先輩として尊敬しそれにあわせた対応を心がけている。調査日は利用者に対し、家族の一員としての話掛けの会話であった。個人情報保護に努め、書類関係は事務所内に保管している。象徴権に関する同意書は取り交わしていないが、了承を得ている。職員からは利用者の意思を尊重し声掛けを行っているとの話があった。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>何をしたいか聞き、入浴・散歩・外出・趣味等、小さな事でも質問し、希望を聞いている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員が決めるのではなく、利用者の希望を聞き、可能な限り利用者の意に沿った生活を支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>起床時・入浴時の衣服の選択、月②回の整髪希望をとっている。買い物希望も可能な限り支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きやおしぼり配り等役割を持って頂いている。調理の出来ない方にも献立の説明する等して楽しんでいただいている。個々の好みも把握し、嗜好品の提供もしている。	食事は外注からの食材で提供しているが、利用者の役割として台拭き・おしぼり配り・下膳等を行ってもらい、やりがいを引き出しており、生き活きと行っている利用者の姿が見られた。月1回の希望を取り入れたお楽しみ献立(刺身の希望が多く、買出しに利用者と一緒にしている)やおやつ作り、外食は利用者の楽しみである。利用者の食事形態に応じた支援を行い、職員も同じテーブルで会話を楽しみながらの暖かい食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は専門の栄養士が考え、栄養バランスのとれた食事を提供している。必要に応じて刻み食等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるだけ本人にしてもらい、出来ないところは職員が援助している。定期的な歯科検診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合った排泄手段を提供。本人と話し合い、自立に近い状況の排泄支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターン・表情・様子から把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。リハパンから布パンに改善した利用者がある。失禁時には自尊心を損なわない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分摂取・運動を促すとともに、主治医と内服の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望する日、時間を聞き、一人ひとりに合ったタイミング、好みの温度で入浴できるよう支援している。	週最低2~3回の入浴支援であるが、希望がある場合はその都度対応可能である。一人一人にあった時間・温度等の細かな支援を行うことにより拒否も少ない。異性職員介助の拒否に対しては同性職員で対応している。季節に応じたゆず湯・菖蒲湯は利用者の楽しみのように会話が弾むことが多い。皮膚感染防止のため足拭きマット・爪きりは個人用を使用。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や好みのじかんで昼寝の提案をしている。昼寝の際もいつもと同じ布団で休んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に処方していただき、それらの用法について職員間で申し送り、正しい内服を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かした役割の提案や趣味の時間等、したい時に出来るよう支援している。また一人一人ひとりに合った楽しみながら出来ることを提供している(塗り絵、歌、散歩など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換のドライブ、買い物や外出の企画。家族とも相談し、出来る限り本人の希望に沿った外出を支援している。	初詣・チューリップ・桜見等季節ごとの外出支援・ドライブ・買物・外食等に出かけている。地域イベントの敬老会や音楽祭、収穫祭に参加の他、近場を散歩し太陽の日差しを浴び五感の刺激や季節の移ろいを肌で感じてもらっている。家族の協力を受けて外出する利用者がいる。受診後の外食を楽しみにしている利用者がいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則金銭管理は家族がしているが、本人の希望があれば保管管理を行い、希望時の買い物などに対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話等本人の希望に沿った対応をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けを行い、温かい日にはベランダでのんびりひなたぼっこをしていただき、季節を感じて頂いている。	共有空間は広々としており、暖かい日差しがリビングに降り注ぎ、一段高くなっているたたみコーナーでは、腰をかけて洗濯物をたたんだり、好きなテレビを見ながらとゆったりとした時間の流れを感じるたたずまいである。ベランダから隣のユニットにも往来が可能であり、お天気のよい日はお茶を楽しんだり、日光浴を楽しんでいるという。季節の花々をテーブルに飾ったり、節分の写真やお雛様を飾り、見当識を意識する配慮があった。乾燥防止対策として随所に加湿器を設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が良好な関係を継続出来るような座席配置。併設施設との自由な交流を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはなるべく使い慣れたものを持ってきていただき、本人がこれまで生活してきた環境に少しでも近づけるようにしている。	使い慣れたものが利用者にとって、安心できる居室となることを伝え、テレビ・筆筒・椅子・テーブル等を安全面に配慮し設置している。小物や家族の写真・趣味の草花・飾り物があり、利用者にとって心地よく過ごせるよう工夫をしている。趣味のゆり絵を飾り、ギャラリーのようにしている居室があった。加湿器により乾燥防止に努めている。居室の掃除は職員と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂場等、十分なスペースを確保し、身体が不自由になる中でも利用者自身で出来ることを妨げないようにしている。B		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームみつば

作成日:平成26年4月8日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケアプランとケース記録が連動する記録方法への改善に努めたが、内容が介護日報誌になっており、サービス計画・達成表が活かされていない。	プランと記録が連動する事の理解を深める。連動した記録を職員が出来る事でサービス計画・達成表を活かす事が出来る。	記録に関する研修を4月14日(第1回)に行なう。その後も継続的に研修の機会を設ける。連動した記録ができているかを随時チェックし検討する。	6ヶ月
2	33	看取りに関して職員の意識の統一がされていないので、体制が万全ではない。	看取りに関して知識を得て、意識の統一が出来る。	看取り研修を4月7日に開催(第1回)。継続して研修を行なうとともに、毎月のケアカンファで話し合いを行なう。	6ヶ月
3	35	災害対策として近隣との連携体制が不十分。	地域住民の方が施設内の防災訓練に参加。	運営推進会議を通して、地域住民代表との話し合い。地域住民が参加しやすい訓練の考案。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。